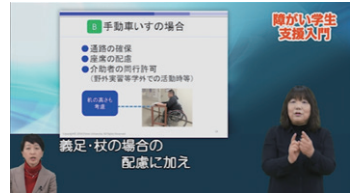


eラーニング教材で 障がい学生支援の知識を習得

～全学サポート体制を見える化する
Moodle コース「障がい学生支援入門」～

FD・SDのほか、いつでもどこでも
見える教材として活用

バリアフリー推進室とテニュ
ア・トラック教員向けに、全体の概
要と今後の動向をまとめた『イント
ロダクション』および『肢体不自
由』『視覚障がい』『聴覚障がい』の
障がい内容ごとに映像を使ったe
ラーニングコンテンツを制作しまし
た。これらは体や目、耳の障がい
とは一体どういうものなのか、
といった障がいそのものを理解し
て、それらの障害を持つ学生に対
する配慮や支援についてどうすべ
きかという知識を習得するための
教材として制作しました。



▲ 手話通訳者とのバリアフリー字幕

字幕の制作に当たっては、手
話と日本語解説のフレーズの長
さが異なるため時間調整に苦労
しました。また聴覚障害者の視
点の移動が少なく済むように、
字幕はPowerPointの両端に収ま
るようにしています。

次に手話では、自分の手話の癖
を出さないように、誰にとっても分
かりやすい手話を心がけました。

さらにこれらの教材全ての
PowerPointでは色数を抑えたフ
ラットデザインを採用しています。

また、各障がいごとのコンテ
ンツでは、それぞれの障がいに対
する理解促進をはかるための工夫
を行っています。

見えにくい障がいもあるからこそ
実際の状況を数多く解説

【肢体不自由】 講師：松重真紀

肢体不自由のコンテンツで
は、例えば義手、義足の場合、
ぱっと見にはわからない場合が
多いのですが、障がいに対する
無理解のために傾斜のついた教
室で無理に立たせて挨拶を強要
されたといった事例をはじめと
した実際にあったさまざまな状
況を取り入れて解説をする工夫を
しました。

実際のサポートの状況を
動画を使って分かりやすく

【視覚障がい】 講師：太田琢磨

視覚障がい者がどのように見
えるかをイラストを使って分か
りやすく解説しました。また支
援方法として、実際に視覚障が
い者を支援して移動する場合を
想定して動画でポイントを解説し
ています。図と言葉での説明より
はるかに分かりやすいものになっ



教育学生支援部学生生活支援課バリアフリー推進室
太田 琢磨氏・松重 真紀氏
教育・学生支援機構学生支援センター
平尾 智隆 准教授

写真左から太田さん、松重さん、平尾先生

ていると思います。

聴覚障がい者の実際の授業の
状況を擬似的に体験する

【聴覚障がい】 講師：太田琢磨

聴覚障害の講義は、受講者が
聴覚障害のある学生と同じ目線
で講義を受講する疑似体験が
できるように作成してあります。
この教材を見ていただく事
で、聴覚障がいのある学生が講
義中に目だけでスライド・字幕・
講師・手話通訳の様子を交互に
追っていくことの困難性を体験
していただけたらと思います。

一度受講後に、音声のある
バージョンを見ることが可能に
なりますので、音声なしとあり



の比較していただくと、より理
解が深まると思います。

eラーニング教材の
バリアフリー化

これらのコンテンツを使って、
今後はFD・SDだけでなく、講習会
やオリエンテーションなどにも
活用できると考えます。また、
現在はmoodle上で公開してい
ますが、将来的にはいつでもど
こでも誰でも見られるような環
境で使える教材として役立てて
いきたいと思っています。

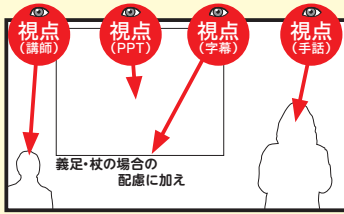
今回、手話や字幕を付けること
にこだわりましたが、他の教材に
それが付いているわけではあり
ません。全学生が受講する必修
科目のeラーニング教材には、バ
リアフリー化を少しずつでも進
めていきたいと思っています。

また、今回取り上げられな
かった『発達障がい』について
も、コンテンツを充実させたい
と考えています。

バリアフリー字幕

今後対応が求められる動画教材のバリアフリー字幕に
ついて、おおまかなガイドラインをご紹介します。

洋画の日本語字幕などの字幕とバリア
フリー字幕は異なります。それぞれの違い
は表の通りですが、決まった規格はありま
せん。今回制作した動画コンテンツでは、
視点が非常に多いため、1画面に表示す
る文字の量も少なくする
などして読みやすくなる
配慮をしています。



以上の要因のため、今回制作の字幕は右図の指標とは多少異なります。

洋画翻訳字幕とバリアフリー字幕の一般的な目安

	翻訳字幕	バリアフリー日本語字幕
1行の物理最大字数	1行/10～12文字平均	1行/12～16.5文字
範読のための許容文字数/1秒	3～4文字を基本	6文字程度を目安
1ハコの行数	2行まで	話者名のみの1行を加えた場合のみ3行を許容
セリフ表示の考え方	要約	ほぼ全内容(読み切れない場合に一部省略あり)
アウト点の取り方	声の終わり	文字内容によって声や音の終わりより長めにとる
レイアウト表示	横下中央合わせ・行頭合わせ/縦右	横下中頭合わせを基本(各行頭合わせで全体をセンターに置く)

※参考：http://okosuke.jp/sub_guideline/

